

(様式2)

2020年度 教育活動活性化提案事業 実施結果報告書

令和3年3月10日

福岡女子大学学長 殿

申請者

所属名 国際文理学部 食・健康学科

職名 教授

氏名 新開章司



事業名 (テーマ)	<input type="checkbox"/> 文理統合 <input type="checkbox"/> 国際性 <input type="checkbox"/> リーダーシップ <input type="checkbox"/> 伝統・歴史・感性 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ※いずれかにチェック☑を入れてください。		
事業実施者及び 事業分担者	新開章司	大学院生及び 学外協力者等	
活動内容及び成果(必要に応じ資料、写真等を添付すること) ※この欄の記載は、大学ホームページ等にそのまま掲載する予定です。 (活動内容) 本プログラムは、福岡女子大学(「地域ブランド論」履修者)とJA筑前あさくら(秋月観光農業部会)が連携し、地域が直面する課題について、学生が授業内での講義を通して知識を深め、現場での作業体験や視察および情報収集を通して理解を深めるとともに解決策を検討し、最終的には課題解決策のプレゼンテーションを行うものである。 プログラムの内容としては、①講義、②現場視察及び農業体験、③地域の専門家(行政またはJA職員を想定)による講演および農業者とのディスカッション、④学生による課題解決策の提示(プレゼンテーション)、⑤復興支援イベント(農産物販売)を計画していた。 (成果) 本年度は、コロナ禍の影響を受けたため、現場での体験や対面での交流を行うことはできなかった。しかしながら、オンラインによる交流を深め、限定的ではあったがプログラムの目的を達成することができた。具体的には、生産現場の様子(動画)を毎週のように生産現場から送っていただき、学生は例年以上にリアルタイムで梨の生育を感じることができた。また、期間中には大雨や台風があり、それらの自然災害が農産物の生育に大きな影響を与えることや、災害に対応する生産者の方々のご努力を身近に感じることができた。また、生産者の方々にはオンラインで講義にも参加いただき、さまざまな情報提供をしていただいた。それらの交流を踏まえ、学生は「With/afterコロナの観光梨園のマーケティング戦略」を検討し、プレゼンテーションにまとめ、発表した。このようなオンラインの交流を通して、学生は多くを学ぶことができ、また、地域や梨への関心が高まったことがアンケートなどからも確認できた。 コロナ禍において、このような学習成果につなげることができたことは、現場の生産者の方々のご厚意・ご支援によるものである。深く感謝の意を表したい。			

